

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100392		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホーム幸樹		
所在地	秋田市泉南一丁目4番20号		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設向かいが、公園という恵まれた環境にあり、天気の良い日には入居者様と職員と一緒に出かけ、外気浴したり、歌集を手に歌を唄ったりしている。また施設運営も5年目となり、地域にも馴染み、散歩中の方に声を掛けてもらったり、園外保育の園児とも交流をはかれるようになってきている。つなぎ温泉を直送しており、週二回程度の温泉入浴をいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの前に公園があるという環境にあり、散歩やお花見、公園の整備を行って地域の方々や子供達と交流され、ふれあいサロンで行われる3B体操やものづくりに参加し、利用者が地域の方々と触れ合いながら生活できる支援が行われています。運営推進会議では包括支援センターや町内会からのアドバイスや提案をサービス提供に活かされており、利用者の地域での生活が安心できるものとなるように取り組まれています。また、常勤看護師による健康管理が行われるとともに医師とも連携が図られ、ターミナルケアにも取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員各々が考えた理念の中から職員全員でシンプルで分かりやすい理念を決定し、家庭的な雰囲気大切に、各々が自分のペースで生活できるよう心掛けている。	管理者は理念がホームの原点であり、サービス提供する上で拠り所になっている大切なものであるという認識がありますが、全ての職員には伝わっておらず、共有されておりません。	職員がホームの理念を理解し、浸透を図るために、会議や実践を通して意識づけできる取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、向かいの公園にて町内の方々や散歩に来ている園児たち言葉を交わし、交流を図っている。	公園の整備や散歩、地域の行事を通じて、また、ふれあいサロンへの参加で近隣の方々や子供達と交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を開催し、その中で認知症の支援状況を報告したり、また実際に利用者の参加を得て、交流してもらう事で、理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に開催し、参加者との情報交換が出来ている。	町内会からの参加が得られるようになり、参加者からのアドバイス等もあり、意見交換が活発に行われています。課題として挙げられた内容を検討して結果を報告されており、運営に活かしていく取り組みをされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護申請等の各種手続きで市役所に行っている。その際相談に応じていただいている。	2ヵ月毎の運営推進会議への参加があり、情報提供や助言をいただく等、連携がとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、その内容を全職員に周知する機会を設けている。また利用者の心身の状態を理解し、寄り添うケアを第一とし、身体拘束のないケアを実施している。	研修後の勉強会で理解を深めています。無断で出て行こうとする利用者の対応策を検討し、安心して過ごせるよう取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やミーティングにおいて、虐待について学ぶ機会を設けている。また、利用者の自尊心に配慮した対応により虐待のないケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方が入所される事もありその都度、学ぶ機会がある。また、その際はしっかりと活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族が不安に思っている事を伺い、安心していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族の来所時、また利用者様とのかかわりの中で職員に話せる環境づくりをしている。また、運営推進会議にて話し合いの場を設け、反映させている。	遠方に住む家族を含めて面会は多く、意見交換ができる状況にあり、利用者の状況を伝えて要望等を引き出すようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングの場で聞く機会を設けている。また、現場から上がってきた意見や提案を反映させるようにしている。	日々の利用者との関わりの中から上がってきた職員の意見等を聞き、反映できるようにしています。	災害時、急変時、利用者の離苑時に備え、両ユニット職員の連携体制を再度検討されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が自己評価することにより向上心が持て、また自らの課題と向き合えるようになる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数や経験に応じた研修への参加を積極的に勤めており、また、研修内容を職員全員に周知する事で現場の実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入している為、職員が順番に勉強会や交流する場に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談報告書にてあらかじめ利用者様の心身の状況を把握した上で、実際の関わりを通して、利用者様の不安等を傾聴し、寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に不安な事、要望等をあらかじめ聞いておく事によりスムーズにサービスを導入する事ができ、ご家族も安心されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事を職員と一緒に行ってもらう事で生活に張りを感じて頂き信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙で近況をお知らせしている。また、面会時には直接近況をお伝えしたり、気軽に話せる状況をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族、知人、これまでの近隣の方や神父様などの面会を自由にしていただいている。また、面会時間を設けないことで気軽に来所できる環境にしている。	祥月命日には欠かさず居室の仏壇にお菓子と水を供える方、定期的に家族と過ごしている方等、利用者それぞれが大切にしてきたことも継続できるように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を工夫したり、利用者様が一緒に参加できるレクリエーションやお手伝いなどの共同作業を通して、関係を深められるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所された方のご家族が状況報告に来所され、相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人に寄り添い信頼関係を深める事で各々の思いや希望などを把握している。	家族等利用者に関わりのある方からの情報や本人との会話、その時々からの行動等から意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や利用者様とのコミュニケーション等により見えてくる生活歴・生活環境を重視し今までの生活を出来る限り維持できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活の中から利用者様の生活スタイル等を把握しており、その方の体調に合わせ、出来る事を無理なく行って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様との日常の関わりを通して感じた事を職員・関係者等で情報を共有し、話し合い、カンファレンスにてケアプランの見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	利用者本位の介護計画となるように、カンファレンスで意見を出し合って作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話等から得た情報や気づき等を個別に記録し、閲覧や口頭での申し送り等によって情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が利用者様を的確に見守ることにより安全で楽しく、自由な生活が出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診とかかりつけ医の受診など適切な医療を受けられるように支援している。また体調の変化などに応じ、いつでも連絡できる体制が出来ている。	これまでのかかりつけ医を利用されており、利用者、家族の希望に沿って対応されています。協力医による定期的な往診があり、看護師が在職していることから適切な支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合、看護師に連絡し指示を仰いでいる。利用者が適切な処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に看護師が医療機関との情報交換を行っており、時々状態をうかがいに出向いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご説明するが、ターミナルケアを開始する際に再度説明を行っている。ターミナルケアが開始されると協力医と相談しながら事業者として出来る範囲内で取り組んでいる。	これまでも終末期のケアを行っています。状況を医師から家族に説明していただき、家族の意向に沿って支援できる体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の介護・対応マニュアルに目を通している。応急手当や初期対応についてはミーティングにて看護師より話してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月に一回避難訓練を行い、年一回消防署立会いのもと夜間想定避難訓練を実施している。運営推進会議を通し、地域の方へ報告している。	消防署立会いの下で実施し、更に2か月に1回自主訓練を行っています。発電機を装備し、飲料水を備蓄されています。	運営推進会議に町内会の参加が得られるようになったことを機に、訓練にも参加していただけるように働きかけるとともに、津波発生時の避難体制を確認し、災害への備えを再検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の先輩であるという配慮を忘れずにその方にあった声掛けや対応を行っている。	耳の遠い利用者や入浴介助に配慮し、一人ひとりに合わせた対応をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者様の希望や自己決定を引き出せるように配慮し、利用者様の思いをしっかりと傾聴し、受け止めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、趣味や散歩等、各々行いたいことが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	訪問美容室を希望により利用いただいている。季節感を損なわない、その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを把握し提供している。料理の下ごしらえ、盛り付け、片付けのお手伝い出来るように支援している。また参加できるような言葉かけを心掛けている。	進んで手伝ってくださる利用者の気持ちを尊重し、利用者に声をかけて食材の買い物に出かけたり、季節のものを献立に取り入れる等、話題を提供しながら一緒に楽しめる食事となるように取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立を作成している。一人ひとりの食事量や水分量をチェックし、状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促したり、必要に応じて介助したり、その方に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮し、声掛けや誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりのパターンに応じた対応を行い、トイレでの排泄を支援されています。排泄用品の使用者にもさりげない支援が行われ、自立に向けた対応をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫し、水分や繊維質の多い野菜を取り入れるようにしている。また適度な運動を取り入れ、スムーズな排便が出来るように心掛けている。内服薬の対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、体調をみながら、無理のない入浴をしていただいている。入浴日にこだわらず、ご本人の意思を尊重して入浴していただいている。	本人の意思を尊重し、いつでも入浴できるように対応されています。拒否される方には無理に勧めず、自立されている方には声かけしながら安心して入浴を楽しめるように支援されています。つなぎ温泉のお湯を運び、温泉浴を楽しむこともできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、安心して眠れるように支援している。室温や湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬について理解し、いつでも確認できるようになっている。処方変更時には看護師より介護職員に伝え、症状の変化についても連携をとり支援している。また服薬の際には読みあげて、確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は、外気浴を行ったり、花壇を見ながら散歩をするなどして気分転換をしていただいている。また、畑の草取り・水掛を通して季節を感じたり、収穫の喜びを感じたりしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	お花見等季節を感じられるような外出の機会を設けている。町内や他施設のお祭りや文化祭、ふれあいサロンにも参加させていただいている。また、ご家族との外出や旅行も自由出来るようにしている。	誘い合って散歩に出かけたり、買い物や家族との外出等がその時々状況や希望に沿って行われ、地域資源も活用してできる限り外出できるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を受け入れつつ状況に応じて対応しているが、ほとんど職員が管理している。小額所持している利用者様もあり、買い物の際支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話はご本人につないでいる。手紙は届いたものは渡ししているが、返事を書きたいと言われる方はいない。希望があれば対応し支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と職員の共同制作した貼り絵や折り紙、季節の飾り等を掲示し、明るい雰囲気をつくっている。ホールの席や配置を工夫するなどして、居心地の良くりラックスして過ごせるようしている。	台所には広い作業台が設置され、利用者と一緒に使えるよう配慮されています。各ユニットに広さの異なるトイレが3ヶ所ずつ設けられ、車椅子利用者もゆっくり使用できる造りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホール内のテーブル席やソファを自由に使っていただき、利用者様同士コミュニケーションを取れるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ってきて頂いたり、仏壇やご家族の写真等自由に飾って頂いている。	仏壇や家族の写真の他、使い慣れた馴染みのものを持参して、本人にとって安らぎの得られる居室づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸に分かりやすい大きな文字で表示して位置を確認しやすくしている。また手すりを設置し、安全に移動できるようになっている。		